早稲田大学文学研究科
日本語日本文学コース
Cultural Sciences Japanese Studies

秋学期コース別相談会資料

2026年11月9日（月）

大学院主任：加藤大鶴

日本語日本文学コースが目指すもの

1. 日本語・日本文学の探究
   - 言葉と文学を通して日本文化の本質を理解する
2. 時代的網羅性
   - 古代から現代までの日本語・日本文学を対象とする
3. 多様な研究方法
   - 実証的な資料調査から最新の文学・文化理論まで
4. 高度な専門性の育成
   - 豊かな見識と専門的な研究能力を備えた人材の養成
5. 国際性と学際性
   - 多様な文化・研究分野との交流を通じた新たな知の創造
6. 社会・文化への貢献
   - 研究・教育・出版などを通じて、国内外の学術と文化の発展に寄与する

研究指導担当教員紹介　日本語学領域

- 加藤大鶴教授　音韻史、方言音声、現代語音声
- 森山卓郎教授　文法、文体、表現
- 澤崎文准教授　文字、表記史、現代表記



研究指導担当教員紹介　古典文学領域

- 高松寿夫教授　　日本古代文学
- 陣野英則教授　　日本古典文学、平安時代文学、物語文学
- 新規着任教授　　日本古典文学、和歌、文献学
- 和田琢磨教授　　日本中世文学、軍記物語、太平記、絵巻等
- 池澤一郎教授　　日本近世文学
- 河野貴美子教授　和漢比較文学



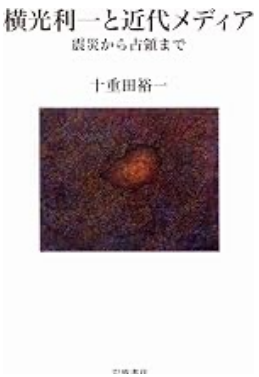
研究指導担当教員紹介　近現代文学領域

- 鈴木貴宇教授　　日本近現代文学、都市論、文化論
- 十重田裕一教授　大正・昭和期を中心とする日本近現代文学
- 鳥羽耕史教授　　日本近現代文学、戦後文化運動
- 坪井秀人教授　　日本近現代文学、文化史研究











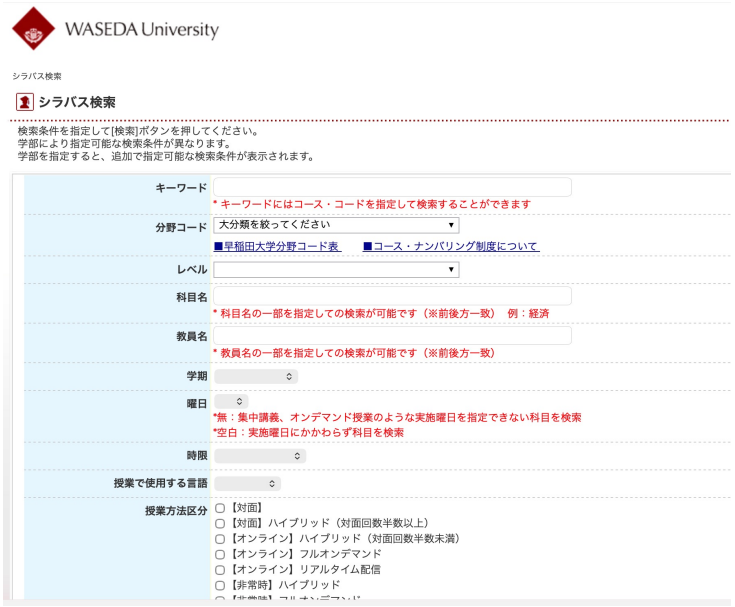


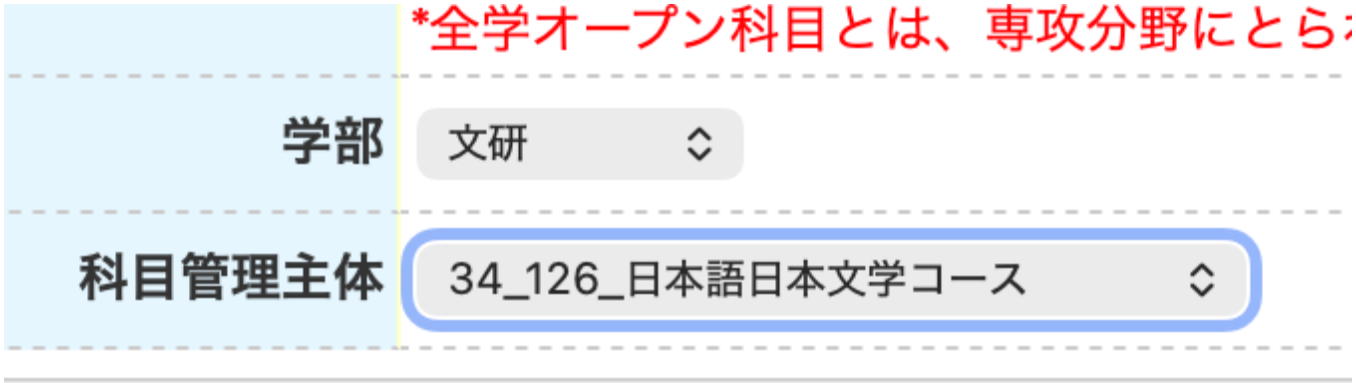




開講されている科目

- WEBシラバスが公開されています！
  - 検索画面、「学部」から「文研」を選ぶ
  - 「科目管理主体」から「日本語日本文学コース」を選ぶ





在籍学生数（2026年度）

	修士課程	博士課程
日本語学領域	7（7）	6（7）
古典文学領域	17（15）	14（9）
近現代文学領域	25（23）	16（19）
合計	49（45）	36（35）

＊（　）は前年度
＊2026年度の留学生の在籍学生は、修士課程５人、博士後期課程１５人、合計２０人

取得資格

- 教育職員免許状（専修免許状）
- 種類
  - 中学校教諭「国語」専修免許状
  - 高等学校教諭「国語」専修免許状
  - ※中学校教諭１種免許状、高等学校教諭１種免許状を取得していることなど、取得条件を満たす必要があります。

留学制度（博士後期課程）



- コロンビア大学とのDDP（Double Degree Program）
  - 募集人員：若干名
  - 期間：2027年度秋学期から2028年度春学期までの1年間
  - 費用：コロンビア大学の学費は免除、英語研修コースの履修が必要となった場合、その費用は実費負担
  - 取得学位：コロンビア大学の修士（東アジア言語文化）学位
- カリフォルニア大学ロサンゼルス校とのUCLA-Waseda Research Fellowship Program
  - 詳細は事務所に問い合わせてください



修士論文題目（2025年度）

- 高松　寿夫
  - 万葉集における季節歌の特殊表記とその効果
- 陣野　英則
  - 平安文学における漢籍受容の研究
  - 平安文学における『古今和歌六帖』収載歌引用
- 和田　琢磨
  - 『義経記』の研究―中世判官物・『平家物語』との比較を通して―
- 池澤　一郎
  - 溝口健二『近松物語』論―戦後日本映画における古典受容の様相―
  - 『北越詩話』研究
  - 横井也有と堀田六林の両吟和漢歌仙について
  - Talking Trash: Midnight Storytelling and the Politics of Obscurity in Nishimura Tenshū's Kuzuya no kago（時代の移り変わりを物語るモノ―「質屋庫」「塵塚」「屑屋の籠」の会話を立ち聞く―）
- 坪井　秀人
  - 加害の体験を語り直す―兵士の当事者性を占領期文学から分析する
  - 内田百閒作品における幻想と記憶―ジャンルと境界の揺らぎ―
- 十重田　裕一
  - 夷齋石川淳の研究――九五〇年代の作品分析―
  - 谷崎潤一郎の〈古典回帰〉に関する研究―表現空間としての書物を視座に―
- 鳥羽　耕史
  - 三島由紀夫論―初期の宗教受容と同時代―
  - 安部公房文学の成立―方法としての「改作」―
  - 安部公房後期作品の研究―表現の変容と思想の位相―
- 加藤　大鶴
  - 群馬・埼玉県境界地域における形容詞＋付属語形式のアクセント変化について
- 澤崎　文
  - 『万葉集』における「之」「乃」「能」字の使用実態とその背景―私家集等との関わりから―
- 森山　卓郎
  - テ形接続の意味と機能―「前触れ」用法を中心に―
  - 形式名詞文末における反事実性について

博士学位申請論文

- 2025（令和７）年度
  - 谷崎潤一郎の〈古典回帰〉研究―戦間期の視聴覚メディアを視座として―
  - 日本近代文学における〈フィリピン〉の表象の研究―貫戦史的な視座からのアプローチ
  - 出発期の川端康成に関する研究―「家」・「孤児」・言語の交錯―
  - 志賀直哉小説研究―殺意〉と語りの構造から読む初期作品群
- 2024（令和６）年度
  - 現代文学と〈食〉―村上春樹の諸作品を中心に―
  - 日本語における現実と非現実に関する文法現象の研究
- 平安中期私家集における歌人像の研究
- 『拾遺抄』『拾遺和歌集』の研究
- 上代和歌と歌論の研究
- 平安時代かな文学における鳥の多角的研究
- 語られる聖地像の研究―北陸地方の寺社縁起を中心に―
- 『懐風藻』の研究

修了後の進路

- 修士課程
  - 博士後期課程進学、中学・高校教員、教育関係、ジャーナリズム、一般企業など
- 博士後期課程
  - 大学・短期大学教員、中学・高校教員など

入学試験

- 修士課程
  - 一般入学試験
  - 推薦入学試験（学部生推薦入学制度）
  - 論文特別選抜試験
    - 出願資格：早稲田大学文化構想学部・文学部の「卒業研究・ゼミ論文・卒業論文」、もしくは早稲田大学（学部）に提出したこれに類する論文に限る。
  - 一般科目等履修生入学試験
- 博士後期課程
  - 一般入学試験

早稲田大学国文学会

- 早稲田大学内の横断的研究会
  - 所属を横断した早稲田大学国語国文学研究者、在学生、出身者などによる研究学会
    - 文学研究科日本語日本文学コース
    - 教育学研究科国語教育専攻／教科教育学専攻
- 活動内容
  - 大会の開催、機関誌『国文学研究』の発行
  - 学術成果の報告と会員の交流

2026年度早稲田大学国文学会秋季大会

2026年度早稲田大学国文学会秋季大会は、2026年11月27日（金）・28日（土）に行われます。

早稲田大学国文学会2026(令和8)年度秋季大会プログラム

11月27日（金）　於・早稲田大学戸山キャンパス33号館3階第１会議室

12:00〜12:05　«開会の辞»
12:05〜12:40　八木　深言「大槻磐渓著『国史百詠』にみる頼山陽からの影響と独自性」
12:45〜13:20　竹中　創亮「明治期における「幽霊」観と「神経病」言説の再検討──明六社・呉秀三・夏目漱石──」
13:30〜14:05　王　雨欣「『大経師昔暦』から『近松物語』へ──おさんと茂兵衛の関係における恋愛表現の強化──」
14:10〜14:45　佐久間　保明「徳冨蘆花「勝利の悲哀」とその水脈」
14:55〜15:30　阿部　駿祐「中村星湖の気分小説──印象主義言説の影響圏から」
15:35〜16:10　北川　はる「違和感まみれの紙面──日夏耿之介「ゴシック・ロマン詩体」論──」
16:20〜16:50　《評議員会》

11月28日（土）　於・早稲田大学戸山キャンパス33号館3階第１会議室

12:00〜12:35　伊東　大樹「性格の無い人間たち──横光利一『寝園』の通俗性──」
12:40〜13:15　弓木　芽育「少女マンガへの移植に伴う「異常」の変容──江戸川乱歩「孤島の鬼」と高階良子「ドクターGの島」をめぐって」
13:20〜13:55　奥田　由珠香「「外部」はいかに成立するか──今村夏子『こちらあみ子』における規範と「おばけ」の表象──」
14:05〜14:40　石川　創「感動詞「そう」類の中心的意味に関する一考察」
14:45〜15:20　小堀　洋平「『野の花』論争と『クロンウエル』」
15:30〜16:30　《講演会》紅野　謙介「文学史はなぜ必要なのか──ストーリー、物語、ナラティブの氾濫するなかで」
16:40〜17:20　《総会》
17:30〜19:30　《懇親会》　於 早稲田大学戸山キャンパス33号館3階 第一会議室（会費　一般3,000円　学生1,500円）

ISSN 0389-8636

国文学研究

第二百五集

天海本『先代旧事本紀』をめぐって　松本弘毅　1
メロンを食べる女
——森鷗外『普請中』における移動する生の様態——　鈴木貴宇　14
夏目漱石「坑夫」とロシア文学
——二葉亭四迷の翻訳作品を視座として——　大島茉莉　30
ポストモダンへの志向
——安部公房『賭』論——　加藤優　44

〈書評〉
堀誠著『中国通俗小説故事論考 『平妖伝』とその周辺』　岡崎由美　58

新刊紹介　彙報　編集後記　「わせだ国文ニュース」一二五号

早稲田大学国文学会

国文学研究（第二百五集）　令和八年十一月　早稲田大学国文学会

早稲田大学国文学会　令和八（2026）年度秋季大会

恒例の年度総会・研究発表会・講演会を下記のように開催いたします。
万障お繰り合わせのうえ、ご参加ください。

11月27日（金）　早稲田大学戸山キャンパス
第一会議室（33号館３階）
12：00 ～ 16：10　研究発表会
16：20 ～ 16：50　評議員会

11月28日（土）　早稲田大学戸山キャンパス
第一会議室（33号館３階）
12：00 ～ 15：20　研究発表会
15：30 ～ 16：30　講　演　会　紅野謙介氏
「文学史はなぜ必要なのか
——ストーリー、物語、ナラティブの氾濫するなかで」
16：40 ～ 17：20　総　　会
17：30 ～ 19：30　懇　親　会　第一会議室（33号館３階）

※開催方法の詳細は、ホームページをご確認ください。
https://dpt-bun-nihon-go-bun.w.waseda.jp/autumn-conference.html

〒162-8644　東京都新宿区戸山１－24－１
早稲田大学国文学会
電　話　03-5286-3721
内　線　72-3519
メール　wkokubungakkai@gmail.com

問い合わせ・相談窓口

- ホームページ「日語日文」
  - http://www.waseda.jp/bun-nihon-go-bun/
- 日本語日本文学コース室
  - 場所
    - ３９号館５階２５１９研究室
    - 講師もしくはＴＡが在室
  - 開室時間（2026年度秋季）：
    - 月火水金　12:00～17:00
    - 木：12:00～16:00
    - （最新情報は上記ＨＰをご覧ください）
  - メール
    - wnichibun@gmail.com